

～鎮守の森の自然林観察と「ふしぎな樹木たち」～

篠栗町の樹芸の森から更に2キロほど奥に位置する萩尾分校は1年生から6年生まで7名が在籍する。この7名は何れも地元外から転入してきた家族で、自然豊かなこの地で伸び伸びと子育てをしたいとの願いが込められているものと見られる。離接する萩尾神社の植生と樹木の特徴等を学び、本校の生徒に教えてあげたいとの要望の下、実施したもので、この神社には古くからの自然林が多く、地域に根差した「鎮守の森」として大切に守られ、拠り所となっている。



1年生にとっては一つ一つ確認作業



する時間が高学年とは当然異なり、難しい課題となってしまったが、それでも自分のペースで熱心に観察ノートへの書き込みを怠らない。一方、上級生ともなればこちらが意図する体験内容もお見通しで、さすがに自然に囲まれて育った子供たち、事前学習も行き届いている様子だった。

観察後は校内のホールにて「ふしぎな樹木たち」を体感。クイズ形式で樹木博士をめざし、子どもたちの目の輝きがいよいよ増してきた。まずは神社の周りで体感した匂いのある木（ヤブニッケイとグッケイジュ）をヒントに「匂いでわかる木の名前」を4題出題。次いで神社内で最も多かったイスノキと二つの樹種との重さ比べ。特にキリとイスノキとの比較では、その大きな違いに驚嘆の声。他に参考としてハガキになる葉と、青白く光る木を体験して貰った。周りの木々の特徴や役割を通して森林の働きや人々との関わりに話を進めたが、森への抵抗感もなく素直に耳を傾けてくれた子どもたち、どんな大人に成長するか楽しみです。



スタッフ：後藤、諸石（報告：諸石）